

審査項目と評価基準

	審査項目	主な視点	評価点	重み	得点
1	提案文書全体	本事業の目的を理解し達成することができるか？	5	5	25
2	サービス機能	曖昧な質問をしたときでも、回答まで導いてくれるか？	5	6	30
		たどり着いた回答は、正しい回答か？	5	6	30
		対話の言葉づかいは正しいか？	5	6	30
3	プロジェクト管理	期間内に確実にプロジェクトを完了できる管理体制計画となっているか？	5	2	10
4	運用保守	日頃のサポート体制(市からの依頼への対応、応答内容の分析・改善提案など)が整っているか？本市が求める仕様以上の提案はあるか？	5	2	10
		緊急時の障害や問い合わせへの対応が可能な体制となっているか？	5	2	10
		AIコンシェルジュに対する職員の理解が深まる研修などの提案があるか？	5	2	10
		年間の運用保守経費が低く抑えられているか？	5	2	10
5	自由提案 今後の取組への 反映	AIコンシェルジュと音声対応機能を組み合わせた自動電話応答など、有効かつ実現可能性の高い提案がなされているか？	5	4	20
6	類似業務の実績	自治体や民間での導入実績	5	3	15
				合計	200

① 提出書類の内容及び実際にデモ環境下で操作を行い評価を行う。

② 全て5段階評価で採点する。

項目4の運用保守経費は、積算金額4,920,000円(税抜)を超える場合を0点とし、100,000円下回るごとに最大5点まで加点する。

項目5の記載なしは0点とする。

③ 項目の1～6番のいずれも、評価点に重み点を乗じ、得点を算出する。

④ 一項目でも機能要件を満たさない場合は失格とする。

⑤ 項目3, 4, 6は、まずは事務局が評価を行い、審査員はその確認を行う。

⑥ 得点の審査員5名の平均点を算出し、高い順に上位とする。

⑦ 得点合計200点の7割の140点を基準点とし、達しない者は順位に関わらず候補者として選定しない。